

# 令和7年度 自己評価・学校関係評価報告書

令和 8年 3月 19日

学校法人 頌徳学園 三和幼稚園

## 1.本園の教育目標

- ・生きる力（自ら判断し実行する力）などの基礎を育み 豊かな心を培う  
元気で明るくのびのびした子ども  
情操豊かな子ども  
友達と遊べる子 を柱として、よく見てよく聞いてよく考える子の育成

## 2.本年度の重点目標

- ・子ども達の自己肯定感の育み

## 3.評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	保育の計画性	C	園内研修を行ったり、担任を入れ替えしたりして、子どもの様子を多方面から見ようとする事で、指導の手立が見えたので来年度も継続する。
2	保育への在り方・幼児への対応	B	人権擁護セルフチェックを用いて自分自身の保育を振り返った。自分自身では感じていなかったこともチェックすることで、保育の幅が広がった。
3	職員資質向上	B	園内公開保育・研修により、職員の成長を感じられるが、どうしても日頃の保育の処理に追われると、研修より、そちらを優先してしまい、自己研鑽ができていない。
4	自己肯定感をもった関り	B	子どもの思い、意見を尊重しつつも集団の大切さ学んでほしい際の言葉がけに悩んでいたため、グループ討議を行い、それぞれの発表を聞くことで解決の糸がみつかった。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果があった）

## 4.総合的な評価結果

評価	理由
B	4つの評価項目に重点的に取り組んだ結果、職員全体は入れ替えがない分、効率化できたはずだが、それ故にマンネリ化が見られ行事や年度末間際に慌てるなど計画性に欠けた。 自己肯定感を育むには安心安全な環境づくりの元、育まれる。それは基本的な生活習慣から育まれる。まず職員が基本的な生活習慣をどのように捉えているのか、職員自身も生活習慣が身につけているのかを、見つめなおした方がよい。

## 5.今後取り組む課題

課題	
園内研修における効果的な研修	教育要領を読みあい、日常の子どもの姿はどの項目なのかを知り、一人一人に合った援助を心掛け、教職員の視野を広げ、学びの場を作っていく
基本的な生活習慣	基本的な生活習慣とは何かを、職員全員で共有し、同じ方向に向かって進めるようにする。
自己肯定感の育みと保育計画	セルフチェックなどを用いて、年3回は実施していきたい。またどこにねらいを定めて指導するかを明確にすることで、保育しやすい環境づくりを目指す。

### 学校関係者評価

#### ○保育の計画性

担任交代をすることで、こどもを多面的に捉えてもらえることはよい。

家に帰ってからも「○○せんせいとあそんだよ」と話したり、褒めてくれたよと先生に対し新しい出会いがあった

#### ○保育の在り方

チェックすることで、自分を見つめなおし、子どもに新たな指導や関りをもってくれた。

#### ○園内研修

時間を作るのは大変だと思うが、作ろうとおもわなければ作れないと思うので、子ども達のために続けてほしい。

#### ○自己肯定感の育み

先生の姿を見て、子どもは真似ていく。言葉一つ、発する言葉、身なり、行いを子どもの目指すモデル像となってほしい。

令和 8年 3月 19 日

設置者：学校法人 頌徳学園  
理事長： 金原 順一

